

LMcorsa Race Report

Super GT 2018 Rd.8 MOTEGI GT 250Km



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA

96



● M.NITTA
● Y.NAKAYAMA

11月11日 | 天候:晴れ | 気温: 19度 | コース:ツインリンクもてぎ | 路面温度:29度(ドライ)



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA

Final Day Summary

13番手からスタートしたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3はレース序盤に電装系トラブルでコース上にマシンストップ。順位を大きく下げるも、吉本選手と宮田選手の不屈の走りで24位まで追いついてフィニッシュする。

Final Day

2018 シーズンの SUPER GT を締め括る「2018 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT 250km RACE」の決勝レースが、11月11日(日)にツインリンクもてぎで開催された。前日に行なわれた公式予選は、予選 Q1でSYNTIUM LMcorsa RC F GT3を駆った宮田莉朋選手が見事な走りを披露して1分46秒966をマーク。4番手で予選 Q2へと駒を進めた。そしてスターティンググリッドを決める予選 Q2は吉本大樹選手がアタックを担当。1分47秒464を刻み、決勝は13番手のグリッドを獲得した。



決勝当日となった11日(日)は、暖かな日差しに包まれた秋らしい空模様。沢山の来場者がツインリンクもてぎを訪れて、土日の2日間で5万8000人の観客が集まった。朝から駆けつけた多くのファンが見守る中、総勢44台によるSUPER GTマシンの白熱したバトルが繰り広げられることになる。

11日は、9時45分から10時40分までピットウォークが行なわれたほか、11時から選手紹介の時間が設けられた。そして、決勝前のウォームアップ走行は11時50分から20分に渡って実施され、SYNTIUM LMcorsa RC F GT3は吉本大樹選手が6周、宮田莉朋選手が5周を走行し、今シーズン最後の決勝レースに備えて最終確認を行なった。

Final Day

白バイやパトカーがGTマシンを先導する交通安全啓発パレードラップで幕を開けた決勝レースは、通常より短い250kmのスプリントレースとなった。第1スティントは宮田莉朋選手が担当。スタート直後の混乱により13番手からふたつポジションを落すも、3周目には順位をふたつ上げてふたたび13番手に浮上。1分50~52秒台で周回を重ねていく。タイヤがソフトコンパウンドのため摩耗しすぎない



ように労りながら前を行く10号車のGT-Rを追った。しかし路面温度の上昇に伴いグリップ力の落ち込みが早く、6周目には21号車のアウディR8に、9周目には87号車のランボルギーニにパスされ15番手まで後退してしまう。そして10周目にスロットルが反応しないアクシデントが発生し、そのままエンジンストール。V字コーナー立ち上がりのコース上にマシンは止ってしてしまっ。もはや万事休すかと思われたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3だが、宮田莉朋選手の冷静な判断で、メインスイッチを入れ直したところ、エンジンがふたたび息を取り戻し、戦線



に復帰できた。しかし、このトラブルにより順位は28位まで大きく後退してしまう。それから1分52秒~53秒台のラップを重ねながら、堅調な走りを見せた宮田莉朋選手。23位まで追い上げ、19ラップ目にピットイン。タイヤ交換を行なうとともに吉本大樹選手にバトンを渡して再びコースイン。

このピットストップにより27位まで後退したが、吉本選手は不屈の走りをみせ25周目には決勝レースでの自己ベストラップとなる1分50秒446をマーク。

その後も安定したペースでラップを刻み、34周目までに24位まで順位を回復。そのままの順位をキープして、無事にチェッカーを受けて完走を果たした。

マシンやドライバーのポテンシャル、タイヤの性能、そして着実に高まってきたチーム力などを考えると、最終戦のリザルトは満足がいく結果とはいえない。しかし、アクシデントに見舞われながらも最後まで追い上げをみせたSYNTIUM LMcorsa RC F GT3。第4ラウンドのタイで表彰台を獲得していることから分かる通り、ライバルと比べても決してパフォーマンスが劣っているわけではない。SUPER GTの2018年シーズンはこれですべて終了したが、来季へと繋がる闘いぶりとなった。

Team Comment



Director : 飯田 章

最終戦が13番手スタートということで上位入賞も期待が持てるコンディションだと闘いに望んだのですが、序盤に電気系の異常でエンジンをストップしてしまい、戦線から離脱してしまいました。そんな中でもドライバーのふたりは最後まで全身全霊で走り切ってくれました。1年を通じてチームの結束力やクルマの戦闘力は高まっており、非常に素晴らしいチームに成長しています。それも御支援いただいているスポンサー様やファンの皆さんのおかげだと感謝しています。今季は目に見えるような満足がいく結果に結び付きませんでした。実りのある1年になったと思います。本当にありがとうございました。



Driver : 吉本 大樹

予想以上に路面温度が上がりすぎてしまったせいで、予選で使ったソフトタイヤと路面とのマッチングが合わずに序盤から苦しい展開を強いられました。さらにエンジンが止まってしまい、結果に結び付かなかったのが残念です。今シーズンを振り返ってチームは確実に成長してきています。2年目となるこのRC F GT3では、第4戦のタイも表彰台を獲得しましたし、すべてが咬みあえば素晴らしいパフォーマンスを発揮できると自負しています。来年こそは我慢をせずに、チームのみんなで喜ぶ結果を得たいです。本当に今シーズンも手厚い御支援をありがとうございました。



Driver : 宮田 莉朋

第2戦の富士以来ひさびさのスタートドライバーということで、なんとか順位をあげたいという思いもありましたが、攻め切るとタイヤが厳しいことは分かっていたのでペース配分をしながらの我慢の走行でした。そんななかエンジンをストップにより勝負権がなくなってしまったのは本当に残念です。今年はずじめてSUPER GTに参戦し、1年を通して色々勉強させていただきました。免許取り立ての自分が国内トップレースに出るということでプレッシャーもありましたが、苦しいなかでも結果を残すことがとても大事だと思い知らされました。本当に皆さんに感謝しています。来季もSUPER GTに参戦できたら、今年以上にいい仕事をしてシリーズ争いに加わるように頑張りたいです。応援ありがとうございました。



● H.YOSHIMOTO

● R.MIYATA

96



● M.NITTA

● Y.NAKAYAMA

Final Day Summary

K-tunes Racing LM corsaの最終戦は12番手グリッドからスタート直後に5番手まで浮上第2スティントも粘りの走りをみせ、10位でフィニッシュ参戦初年度ながらドライバーズランキング6位で2018シーズンを締めくくった。

Final Day

AUTOBACS SUPER GT シリーズ最終戦となる「2018 AUTOBACS SUPER GT Round 8 MOTEGI GT 250km RACE GRAND FINAL」の決勝レースが11月11日(日)に栃木県にあるツインリンクもてぎで開催された。ウエイトハンデの課されない最終戦は予選からも熾烈な闘いとなり、10日(土)に行なわれた予選では、K-tunes RC F GT3に乗る中山雄一選手が公式練習を上回る1分47秒



429のタイムをマークして予選Q1を突破。続く新田守男選手も予選Q2で1分47秒319を記録し、決勝レースは12番グリッドからのスタートが決定した。ドライバーズランキングでは5位につけており、僅かではあるがチャンピオンの可能性を残し決勝に挑むこととなった。

11日の決勝日は、秋晴れの快晴のもと11時55分からのウォームアップ走行からスタートした。全8週の走行のうち7周を中山選手がステアリングを握り、最終周に新田選手にバトンタッチ。セットアップの最終確認を行なった。

スタート時のコースコンディションは気温19℃、路面温度29℃で、この時期としてはやや高めの気温となった。3万7000人の観客が見守る中、53週の決勝レースは13時35分のパレードラップからスタート。まずは、GT500を含む全44台のマシンが地元栃木県警の5台の白バイとGT-R、NSXのパトカーに先導される。先導した警察車両がピットに戻るといよいよフォーメーションラップが始まり2018年シーズンを締めくくる250kmレースの火ぶたが切られた。

Final Day

K-tunes RC F GT3 のファーストドライバーは中山選手。スタート早々「狙っていたラインに前走車がいなかった」ということで12番手から8番手まで一気にポジションを上げた。さらに翌2周目には7番手へと浮上。タイトル獲得の可能性が高まる中、1分50秒台のペースで果敢に前走車に食らいついていく。しかしパッシングポイントが少なくツインリンクもてぎのコース特性ゆえ、なかなか順位を上げられない状態が続いた。



ライバル勢との膠着した関係に動きが見られたのが18周目。上位車両にトラブルが発生したことで順位に変動があり19周目には5番手にポジションを上げることができた。しかし同時にタイヤのグリップ低下も発生しはじめ1分51秒台へとラップタイムが落ち始める。21周目に中山選手がピットインし、タイヤ交換と同時に新田選手にドライバーチェンジを行なう。

上位車両の何台かがタイヤ無交換作戦を選択したためもあり、ドライバー交代後は17番手でコースに復帰。しかし、新田選手の気迫の走りで25周目にはベストとなる1分49秒483を記録。その後も1台ずつ着実に前走車をパスして行き、26周目には16番手に、28周目には14番手、翌29周目には12番手、さらに30周目には11番手へと順位を上げ、32周目にはついにポイント圏内の10番手に浮上する。

その後は1分50秒から51秒台のペースで前走車を追うもレース中盤を過ぎコース上に増えてきたタイヤカスに邪魔され思うようにギャップを詰められない。ただ順位こそ変動はなかったものの、後続車に30秒以上の大きな差をつけ、47周目に10位でチェッカーを受けた。

K-tunes Racing LM corsa は、参戦初年度ながら8戦で2勝を挙げ、3度の入賞を獲得した。この結果によってSUPER GT 2018年シーズンは、ドライバーズランキング6位、チームランキング6位で終わることになった。来シーズンはさらにチーム力を引き上げて、常に上位で争える体制を整えていく。

Team Comment



Director : 影山 正彦

予選 Q2 通過後のタイヤの抽選の結果、ソフトコンパウンドのタイヤで決勝レースをスタートすることになりました。燃料をぎりぎりの量に抑えマシンは軽くしていたのですが、中山選手のスティントでは思うようにペースが上がらなかったようです。一方で新田選手のスティントはベテランらしい粘り強い走りで、しっかりと入賞圏内をキープしてくれました。浮き沈みの激しいシーズンでしたが、今後の課題も見えてきたので、ファンやスポンサー様の期待に応えられるよう一丸となって取り組みたいと思います。一年間、応援頂きありがとうございました。



Driver : 新田 守男

タレの少ないミディアムタイヤに交換しての走行でした。走りは非常に安定していたのですがコース上に増えてきたタイヤカスの影響で思い切って攻めることができず、タイヤ無交換作戦のチームに一矢報いることができなかつたのが残念です。新しいチームとして始まって1年、ファンの皆さんからの熱い応援によりシーズン2勝を挙げることができました。タイトル争いができるチームに並ぶことができるよう、課題を解決していきながら来年に備えたいと思います。



Driver : 中山 雄一

12番グリッドからのスタートでしたが、レース序盤に7番手になることができました。5番手まで順位を上げて、第2スティントを担当した新田選手に託すことができましたが、もう少しペースを上げられればもっと上位を狙えたと思います。ピットインの時点でトップとの差は15秒差だったのですが、結果として引き離されて10番手になってしまいました。シリーズを振り返ると取れるはずだったポイントを落としてしまったレースもあったので、課題は色々あります。それでもチーム、ドライバーともに持てる力を出し切って、良いシーズンになったと感じています。1年間の応援ありがとうございました。



ktunes
RACING

 **M.NITTA**

 **Y.NAKAYAMA**